令和４年度自己評価結果公表シート

幼保連携型認定こども園　常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園

1、本園の教育目標

温かく安らぐ生活の中で、豊かな感性、好奇心、思考力の基礎を培う

【望ましい子ども像】

・健康な生活の仕方を身につけ、自分のことを自分でしようとする子ども

・自分を大切に、友達も大切にする子ども　　・ちがいを受け入れ共に育ちあう子ども

・よく見、よく聞き、よく考える子ども　　・心をうごかし、やってみようとする子ども

・感じたことを豊かに表現し、自分らしくのびのび生活する子ども

2、 本年度、重点的に取り組む目標・計画

「みんなちがって　みんないい　子ども・保護者・保育教諭　認め合いの集団をめざす」

・一人一人の「ちがい」（個性）を「よさ」として受け入れ、認め合いながら共に生活を創る。

・社会に求められる幼保連携型認定こども園として、在園児だけでなく地域に向けての子育て支援や子育て応援、保護者支援を行う。

・教職員が「安心し楽しく過ごせる」「自信をもち保育ができる」園環境を考える。また、園内研修を積極的に行うことで共に学び合い自己開示できる集団、質の高い教育・保育を目指す。

３、達成状況

【研究テーマ】　　『共に感じることから始まる子ども理解　子どもと創る生活』

⑴「幼保連携型認定こども園としての保育・教育」

①　保護者アンケートから保護者の思いや子どもの生活環境が知れたことで、新たな個別配慮やかかわりの必要性がわかるとともに、アンケートから見えた園の課題もわかり教職員で考え話し合い、教育・保育の見直し再構成につなげた。

②　幼児の発達や個別な支援、保護者支援等の様々な研修参加で学んだことを活かし幼児一人一人に応じた新たなかかわりや家族支援をすることができた。

③　時間や場所を工夫し未就園児が「集える場」「遊べる場」の開放を行った。参加した保護者からは「初めて出会う人と関わる中で子育てについて情報交換する良い機会となった。」という声が聞かれ子育てをする保護者の負担や不安の緩和につながった。

⑵「園児の生活の充実として」

①　昨年に引き続き保育の営みをビデオで記録し研究討議を行う園内研修を行った。教職員間で互いの保育について「良い点をフィードバックする」と共に悩みを聞いたり、アドバイスを受けたりする機会が多くもてたことで自分の保育を多面的に振り返る事が出来るようになり保育計画・保育の充実につながった。

②　保育等施設で起こる虐待等事故の予防として、チェックリストを使い自己点検を行った。よりよい教育・保育のあり方を「子どもを尊重する」「子どもの人権を擁護する」観点で再確認するよい機会となった。

(3) その他

① 新型コロナウイルス感染者数の動向に合わせ地域行事への参加を広げたことで、多様な人とのかかわりや様々な体験が出来た。　（三原台中学校３年生 SDGs の取り組み、三原台小学校２年生地域探検、三原台小学校１年生・５年生交流会、みはら文化祭り、子育てフォーラム）

② 堺アートスタートプログラム（音楽体験プログラム）で、ユーフォニアムを含めた管楽器の生演奏や、マジシャンによるマジックショーを鑑賞し「本物」を体験し興味関心を深めた。

③ 年長児と保護者対象に「小学校出前授業」を行う。元公立小学校校長　島居寿之氏を迎え子どもには模擬授業、保護者には小学校進学に向けて講演していただき、小学校進学への期待を膨らませた。

④ 地域家庭児童相談所、堺市南区子育て支援課、地域学校と密に連携し、個別な家庭支援に力を入れた。

⑤ 堺市「幼児教育実践セミナー」における施設間交流で、保育公開を行った。公立・私立の先生方に保育に対するフィードバックをして頂き新たな刺激となった。

４、学校関係者評価

・少しずつコロナでの規制緩和がされ地域行事が元に戻ってきている。参加してくれる園児も増えてきてくれてうれしい。

・地域が主催する子育て支援サークル「ひだまり」に、毎回先生たちが楽しい保育を準備して来てくださっているが、地域の子どもが昔に比べて随分少なくなり参加者が少なくて大変申し訳ない。参加してくださったお母さんと子どもはとても喜ばれているので今後もお願いしたい。

・ 地域でマナーやルールが守れない青少年が目立つ。最近では怒らない親も増えてきている。保育園や幼稚園といった小さいうちからルールが守れる子どもにしていかないといけない。よろしくお願いします。

・ 幼稚園を卒園した後も小学校、中学校で過ごす子どものことで情報交換したり引き続き支援のサポートをしてもらえたりして助かっている。

５、今後取り組むべき課題　（令和５年度計画）

『　互いの「ちがい」を受け止め　理解しようとする　』

・子ども・保護者・教職員それぞれの個性や考え方の多様性を認め合う中で自分を知り、相手との違いを知ることで相手を理解しようとする姿勢やコミュニケーションを大切にする。

・在園児と共に、未就園乳幼児の育ちの保障（遊び場や集う場の確保）、子育てにかかわる大人のケアを行う。妊産婦期から子育て期にかけての切れ目のない子育て支援、地域子育ての相談窓口となる。

・園の様子や保育内容をより沢山の方々に知ってもらえるよう園のＰＲ方法を工夫する。

６、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。